



第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

WS-21「ヘルスリテラシー入門 ～患者さんの「健康を決める力」を高めるために～」

【講師】

宮田 潤（大阪大学大学院 医学系研究科 社会医学講座 公衆衛生学 /
恵寿総合病院 家族みんなの医療センター 家庭医療科）

宇戸谷翔太（福井大学医学部附属病院 総合診療部）

達川 知美（石川勤労者医療協会 城北病院 内科）

清水 海斗（永平寺町立在宅訪問診療所）

大濱 弘光（福井大学医学部附属病院 総合診療部）

武藤 理（福井大学医学部医学科 地域プライマリケア講座）

此下 尚寛（福井大学医学部附属病院 総合診療部）

楠川加津子（永平寺町立在宅訪問診療所）

「座薬=座って飲むもの」という勘違いを笑い話にした落語があります。その一方で、「日本人の4分の1が、処方薬の服用方法を理解することが『難しいと感じている』と回答している」という、笑えない研究結果もあります。

このセッションで扱う「ヘルスリテラシー（HL）」とは、自分に合った適切な健康情報を「入手」し、「理解」し、信頼性を「評価」し、効果的に「活用」する、4つの力を指します。HLが低いことは、薬の誤用のみならず、効果のない健康食品の購入、救急外来へのコンビニ受診、健診未受診、といった様々な悪影響を及ぼしますが、HLについて、今の医学教育では学ぶ機会の少ないのが実情です。

このセッションの目標は、1. HLの低い人に配慮した診療を行えるようになる、2. ツールを用いて健康情報の信頼性を評価できるようになる、3. 患者さんや住民のHLを高めるアプローチを実践できるようになる、といったことです。この機会にぜひ、HLについて一緒に学びましょう！